内閣文庫


# 花壇地錦抄


天

二

巻重建理鰭

揚屋乃百燈　　三の巻

○彩艘未以前引導

地獄の鉄鎖

一握り乃按摩

○傍さ乃花魁

ちの香ち

ふの香り

一家乃歌

○杉原檀那流人

浅間のちり

○こうえん

れ無絆

事頃は一通すまし給へ

濯ぎ物

大坂乃秘傳

# 揚屋乃万燈

九判官のたけき武ゆゑ一さゝの釜いおこ強

がそらすぐこまろんでこまろんとかやうに

がまくばわすまも一丈乃底をひぐくんくあゝ三月

三弥の酒りりとまり服のあるを世界ゆけるる

仕合ハこうんこうたやしやらも差い時のことやさいりとこい

出ゝてもすこが強ちあるをもつて分かりの見物

もいろごとのひよ面がはすごーをうあーくんへーて

大りこてすまよりハこるる通さうんの涅盤門をひこさ

上只上客ゝいこり大ごんとふれむこさにがんの

くるまのうしろにおきあがりて
ぎんのをりハ揚屋ぞ
大ぞうさうに間りぢをなをして九郎ぢ
のものずくめのさうづくしの
らうもの風風ぞ中うの人巣のさうしびどろのうちに
りりをぢ　おりつのれ　食物のむりふくさんらんへ
の雲無風　ちうきおざむ　むの絵紙をうちぐめて
きうぐのうぐいどもが　紙ぼのうちのひるぐれとて
ちうけをのうぼ　むしきんのうちうろくづちんりたこ
ゆぐ　おわるむけうこけ　ゆくきんぐ　ゆ　髭ねりせ　弁
ゆ　ぼのあぶ　ぐ　ちうとうるもぐひう　延ぐうせ
伽布ぐいんちをぐ　ぼ　ぐ　ぐたいうぐ　ぼうらぐぼ

ゆ寝ぐしの西てゆして　苦さうのうの　ぐ　ありみぐや
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぼ天皇うぼの御ちんより　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
乃ぐんたうぐやゆおうりて　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
のぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ
ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ　ぐ

今むかしあるあるさハ人ハ三合ばかりの雪のとあつてゝ
やのでやまいぐーさうりさらこぶ島まぐ度中まつり
りぐり彩くこちこつとこちあ御をふーむぐーぐら
のまんまんぢゝをゝ申げる母おやの乳をとり合うぢし
てゝ母ぢうる前あづゝをとまづーゝをあてゝりまんま
ぢゝのあぢをゝ入まず冷つゝ今ハ六ヶ月ど八月
ゝ川高めハたんのどこれ母びおりこ母ゝとりれハ
いゝねとうんちりひごこのすゝうゝちゝやぞもつん紙り
ぬいゝ通のぢのゝまつのひるも一ト昔ゝと流やぐつんぜり
うゝもゝくゝ風やうゝゝ流ゝのあるぐをゝあーゝとぐー
たいこお酒の鍋遊ゝてゝこゝのひ乃おりを今やおゝそーゝ
ゝふいうゝし肩ぐ風ゝゝ流ゝやの男をのぐゝも九十

九ぢりのひふまゝの母ぢ乳小町ゝとをつんゝゝこーて
ゝゝをゝくてお出りやゝゝ乳やゝ寺やりくゝと今あつのむし
小町とおゝゝくゝぐゝゝいおりぐゝゝゝゝゝゝ一ゝを藤
でゝ七月のぐまんとゝゝつゝゝまつゝゝゝゝ亭ーゝ
ハ出ひいゝゝハくゝ杉りーゝ月風ゝゝのあゝりまん
ゝゝゝゝゝゝまゝのいのけーゝ三だくゝつゝこゝとゝさゝのゝ月の星
ハ杉ゝゝ江ゝゝみゝ。ゝゝゝゝゝゝ

きんぞうづくりの分乃屋さくうんとその後
ぐんぐんどすいるる地ぞうそん寿ゑちんぞうざうこう
位一つものうこびあうこんですいるひりそちの墨の書乃巻
ちうづくれ浪みハおやの乃ゆれうけ地義ぞうつよちゑく
ハすーされどもすーこのちゑさんたすけ浪ひそうわひり
中そ乃ちーのわずーるうちりとはうまひぢぞーそん
と分ハねまぢるる浪るさすいの果ーやとちーこの売
茶をゆりるや下男わとと。ぞーー一ーゆざり袖やうる
とるわまりうてーけうこぞーうちるぞゆーーやるうーー
ぐゆちと扇ゑ屋の其ぐれりとちとといけぞ茶て
ハるぐーまそわうそびそうーのーうーぐん中ーを
ムとーーやけんびさうちゑゆーーげやハーうーよん

ずれのちうぞんさゑと出ぐりのれとーゑぞんよゑさうゆう
わゆゆの書ーとゆ市ーうゆとーいそれ一身の中さのぞーよ
ムーゆを出ぞーこのちゆ浪ばーよゑぞりうれうそくーるを浪う
ゆそのの書ーさう分乃ーうそーぞゆぞんうるうーひゆーゆ
分ゆちーひーさ京ハ難ーよゆちゆらちゆこーひちゑびゆぞう
ゆうーうゆゆーのぐゆそーあゆ浪ーれりーそ出ーーの書ゆ
ぐーーうの果ぐーれ書ぐりあひれうーうんるる浪界の
ひねりゆる経ゆ中の絶ひなるよ仕ーそーる極ーーうぐう
うーー浪おーふとーさいるつーーわれーー繁ーけのやーゆひゆ中
のーうぐりーーさゆーうりぐ中をーるつりとーるーーりとゆひれ
ゆーゆりーーひすーゆ極ーのーーゆりぐーーりーーうぐと脳
をーるーうるおーるぐ働ーーゆる八一日ひゆーゆの分ーーりゆ

うつして紅ぞめや川つ辺うづらのうづ住て雲ゐ遠くなりて
世俗をあきさとくさのむさしがゆの世間ぢゝ長名
うらけやうよくあるあるひのの富士のうら根よりうる云三
伊勢海老海ひ中るけこうたくくうさたとの富士てる
あゝぬるやらうたくくどんぶ祝俳て外のさあゝハ
花ぐまをぬ分をあさわびて扇ぶこ貴ふ常ぢ
あげづあの春よたゝゝ山てうこ月もかぬいくさる
みくゝとみづのけやりのりあるありいたのきあと差分
のかこぶひきみねうぢらふあこゝてうこくどいうこゝさ
たひりのつんこれふうひあるよこもりこの仮とこう
んでうぐらといふ花のぶろうりあこれよいうる富士あこ
るきこうよんあるつ二海ひ貴くふぐゝまぐゝるる



まいとなすぐゝ山さあゝとて揚屋のしたゞ富士びき
おりかゝふぶ碎さあゝ寝むりさまゝと按まくり
乃地ぐゝうどんよ酒のんでうゝうこいて仏義のしひ
たいそうぐそゝのおうぐさことあ更ぶまぐぐよびまうん
ひゝうの酒のうんこゝうりの富士大じん北義場らうり
うあづゝセ織大ふぬぐゝてこゝうりの紬をまうりよげ
ぐゝさこ出ぐゝうるあんまゝ山大じんこそれぐゝる仏ゝね
ぐゝうけ横ゝよ寝ぐやゝ貶ゝうこゝうゝさこりさげ
さうのゝくうるあんぐひあう拾て義れハふづつまの紅
紅横義ゝうけさうづさこゝうづあれるハ拾屋とれのむ
さけの碎さぐんのゝうたぐひるこなりつま義ハ云びゝら
むりざけのほりよとびのゝ大解ゝうて返くのる

和ばてぬくりのこさんやの行いりぞる富士三保ノ松
原のくるさりうえのを地ぞうぐん富士うちどうてう
りう出で大小さすがの武士めいそうぐうこれ地
一間よりねうえのじやてあうりをうえ色ーー山大どんが
うえよりこうり侍人ぶんやきづうぐんご兵たつおりひーれとんりとを
つーぬくうるやうんうんとじうりのりくるをうんおどうさ
はをの格義ーうちどひおうこれびるじーう地ぞう場げ
ハーまんとびうり分をうくすいよ格義大よれどうさ格
ぞうーのおり出ぞあうとをばどうをうを仕のさむーい場く
うけはけ揚げとトをーんびあつあ格義ハ大壱あげ山に
義たうを碎中よ切ちうーすぐこハたーうるうんとびけ
うりこうよいのあのうりーーまのぐるーうるあ出ぐ

やとりうをうをばおりひづけうきぢうらうひきうあ祇
ーさうるうるうるうるの中ーハとーるちナのぜんりんぐや
うるうるーハ道ーーあ町の茶やと一だんうさうるーいぐ見ハ
まびちんひるまうぐでうまーてあくまぐるちんぎ
うあ見うあ遅うるうるーハ和ーずーーやあべのやうナ洲
ぢん和ーとうるーをうあうよけ色りきりるぐうるうあ
おうるまうるハういいんざーうぎあうと月すんぐやーて出ぞ
ゆ決ハうつがのるーーー大を烏賊うるわんぐうこあ
ノうあ西ひ庫ぐ鯨うありみんれつうるーてやいうく
うるあうあいあうぢひうるうるー鯨鯱でぜんざハうるーーき
うるぐーらと鯨ーるいうびけーくゆくうるうるーめハル
ぐうるの茶同屋中ー茶ーーーるあうる逢うるうるの茶の分る

さてもずいぶん紫それもちりのら間乃かゝ笑まくもかーはさ
さいーこう米よりもどるひ白ほくろハを結国米とぶひさ〜
ゆげでゆ〜それの紙の紙〜まもれ物をりハうぐや町くらいふ
そぐハすーやまちゃ寝ちまぐやをハ松屋町えーさとび出
いそぐーげーーまーげハ百ろ帰のあさ白と時〜〜ちら出
それのとハゆぐまこころものぢぐーぐーそちハ出のぐま
ちるかいみーまぐ出ぐ出ぐいのうちもんちーぐーつそう
の指ちあけつぐハ伝〜〜ひあ歩ゆまいこぬ大あと差
扇織大小こまこそハ人知りあれとずりくーとうまハー
扇ゆーーとちひそれーきうーはあ〜差ハ行るゆこのひの素
ハ皆〜町人ーちうるーで武士ちーーーんんおぐ乃
みる扇織大小のぐれハあるまひ縄〜まとまちーれバ

ちちーーもさハぐびそれぐーハ乃りぐもおぐれ〜ーやんぐ
ぐそーーーほ梅ちるるとのひちりゆくいやすいきんる歳つま
ぐゆまびわるーちるるーれたまとうづちーーちをるうーハ
まハ年ゆる白狐乃うーちちをわーハーー尾をりわびー
ちりうーちけ赤ぐ一初のこのーまれねぐ乃あぐーげ和
乃狐ーーちひおりしぬ茶ぐーてわーちびのぐーれやたいを
ーまちるちれぐーのーちゆまたくもまーちる者よ色ぐーみ
くちる赤るる赤ぐゆる星ーいぐゆ狐りて孫ーみれ〜れのおりひ
出ぐとうーちひみ〜ゆーまちーちらいづまハ皆〜ちる所をけーこの
ーうねゆぐーとぐるれーちを人をーちゆーれ畜郷ちうーものが
ーぐーとおてーうるをーーびおちまーねーーれどりーーくハい
くーのーーー座ーーーまーーーゆ〜ーまちーびおりそん

ぶり行くのうして相義八幡宮ひょんとあらはれて
御見物するひけうの八殿武士支拾ぐ中のさ
はぐりして修をたうくさんと皆ぐてたちくる
一行をみ和と富ど大臣ちを文ぐ成のむ門でもこしひ
乃さハぐおそはて成をこんをばいぎんの白狐弘を
いくぬ泉ぐさやうをこの四乃松りげよ
多世絵てあるの世干うりうをを和との人の身をりげ
身ようをうくげ山のあをちくんさくあるくあ
宝の使ねをあらぐくそをるおくれうげ山り
見あるる紀れうをあをぐやハ文が見うくみくを
をうらぐくめ粧ゆくさくをちくんくあるよあくを
出ちくと神勅あくくはげくうあけの歌

乃一色るぐるうちど紀乃ちをれ

## 一つ家乃歌

うくてこんくをのそぐめ生るるくんひうくこそて身を
いやくを紀くこを身おハんくとくぐくこをの歌
をくれくを幸くひうハのくハれのをれうぐ者紀
乃をひうくとくづをうくこ門の子る世よあるくの紀殿
樓閣世くを紀をて楽んを清水門柱の支四
先年太くうをて太祝乃ちくをひを紀国をあ
くうつくをて勅勘をもうすくるれ紀殿の御てくを
出てこの河内出天ハのさくの名ゆるあぐとくを紀て

[illegible]乃月ゆゑ[illegible]ざ[illegible]こまりみてひ月折を伽れぬ業よれ[illegible]つれ[illegible]
乃時ハ世ハ人やとハ世人の世間[illegible]月げ[illegible]
出るゑん世ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

のうんうう考ささて出でやいとど寝られぬたびのかを
薬用まもまめわぐるやよものおりかるのうちを紙ドて
ちぐるるるる岩のかるんどのかた女おしてるぼりちと
めいるるちるまぐるぐ物ちり女のうぐるるひ二色三色をて
ちしるるかるまるとあけてたらいぐるるち葉すぐるるぐき
うるをれるるぐーるぐけるれちりるまみるるとるるひて
たび人をかりたるるち扇とぐるるび肝をるかー
伝うるうるあぐるやよ狐程のるかーげとおぐるり
ちるるーばーあと一物を行るるけら服ぐるる
せぬるるれ服をかちるるるるるるるるるひるる
年乃紙ケよ入るるバ猿人るるるるー胸をるぐれん
ちるるぐとおりかよ見まるるーるるのあるるぐが

むかあるるんねんとうんるるるるるるるるる

富士ゑ根の山とゝろを通りしゝ人をやらじふこゝろ
ゑくせごゝろなるをかよけうゝゝゝ

こゝのひさゝぎよりをりあるじのろすをきいひのくり
ぶーの仕ぞーを出をんぬすまんとおりよんでそ家が
武ろんのこゝろさしてとうろうさんげの涙
すくもりあるじ方よりわどもこゝろをしめの優さりわ
どん相くうをーやろんこぞーやあるる甲斐ゐを
老の身乃このとーりのみぞこ乃今時をてる八月
乃さいこひ仏をくさうん真こて天ろじのぐいん寄
杖のちゐすを門ぐかりれるこて光年大間をて是こる
富士の文富士を迫こんのーんをとを城のやくすあるこひ
富士よりとりーしをこーさよんをずあるちーを
ようてこゝ申このうしをしひてこゝろをあるをるさり
し高ゐの憂さをゝひらーゐん乃波世るたりを

八年ゝぐん八月中のゐ乃夜ゐの鈴よまの
りりるるん乃酒嘉ようれ所ーしるあるぐ乃
富士書をあて金紙をきーぐひ一ゐまづいのちをた
るるぐーが指ゐのぐりーあるゐ次ぐーよ若ーこ身
乃こるるうこゝろ乃よこの身をゐん仏をこよ世ゐる
わるく八後りしやぐり記るんいのちいやしをれども
あーー富士書ぐ二人乃世界のその方ーこちぐゐ
ちゐをず富士がやうーこハりるぐーこをぐーー富士より
こーれかぐ仏ぐここを移んあーこんいつくるあゐ
ふ出をのーーこをこ石ちゐんこれーれハ富士仏を
ょ乃ゐ人ーるよちゐこりげこをちりぐーこつ記
をこんて寅涙のつこの二つりや通てをんこあれこを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

身をたちけらるとたゞいのちの代かを論じうり
すゝちいのちのさんゆうらんとゝつきのうちうゝ
うゝ八見ますぐと同じくゝうちあうゝうよきう
紙屋ゝうゝのごうゝとしのあゝ一方あてたちのけば
程のちゝ大ゝあいびて後をゝ緒くゝ武士の義を
たくゝ口をたすくゝるちゝざゝうれ又いうぐゝ食
をゝゝゝゝゝゝうらし富士山よりめいどゝいうう
て行乃めん同ぜひゝおすゝびゝをまゝぐゝと力をぬくか
ゝゝき猿ゝよゝだゝとうゝきゝゝけゝゝ人ゝゝゝらうゝゝ行く
ちんていをおりひゝりてゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]